

久留米大学病院の医療安全への取り組み

久留米大学病院医療安全管理部は特定機能病院としての役割を担い、高度に発展していく医療技術、医療機器、医薬品に対し多職種で“チーム医療”を実践する中で、日々の診療業務の環境を見つめながら安全で良質の医療システムの確立と職員の養成を目指しています。

具体的には、医療安全管理マニュアルの策定により各部門での安全推進活動を支援し安全意識の向上に努め、加えて定期的な各種委員会の開催と安全管理業務の企画立案、評価を実施しています。また多職種巡回により、各部門・部署における医療安全対策の実施状況の把握・分析を行い、医療安全の体制確保のための業務改善等の具体的な対策を推進しています。さらに職員研修の企画・実施により、複雑な状況へ柔軟に対応できるよう事故防止に重要なコミュニケーション、ノンテクニカルスキルの高い医療者の育成を目指すことで、医療安全の前向きな意識と文化の醸成に日々努めています。

インシデント、医療事故については、すべての部門からの報告を集積、分析して事故予防策を策定し、医療安全管理対策委員会をはじめ診療部長会など各種委員会で周知徹底することで再発防止に全力で取り組んでいます。治療中の不測のトラブル等に対しても、病院全体で対応できる治療体制の構築を積極的に支援し、医療の質の向上に努めています。患者・家族の相談に応じる体制を十分支援するとともに、医療事故等が発生した場合においても、第三者による客観的な意見を参考に、事例の調査による原因の究明と再発防止策の実践、指導を行っています。

以上、患者さんにより安全で質の高い医療を提供できるよう、私たちは日々医療安全管理業務に取り組んでいます。



平成28年 7月

副院長・医療安全管理部 部長 田中 芳明

私たちの理念

人と地球にやさしい、生命を慈しむ医療

私たちのめざす医療

1. 患者中心の医療
生命の尊さにもとづき、患者や家族の権利を尊重し、心のかよう医療を行います。
2. 共生の医療
地球環境にやさしい共生の医療をめざします。
3. 高度で安全なチーム医療
安全性を確保し、高度で専門的なチーム医療の確立をめざします。
4. 地域と共に歩む医療
地域医療機関との連携を密にした、継続性のある医療を行います。
5. 優れた医療人の育成
教育機関として高水準の医療技術と思いやりを備えた医療人の育成に努めます。

CONTENTS

- 久留米大学病院の医療安全への取り組み
副院長・医療安全管理部 部長 田中 芳明
- ロボット手術の導入により外科治療は新たな時代へ
泌尿器科診療部長 井川 掌
- 新任診療部長紹介
- 紹介予約センター紹介実績

ロボット手術の導入により外科治療は新たな時代へ

泌尿器科診療部長 井川 掌

2016年6月、久留米大学病院にロボット支援手術の最新機種ダヴィンチXiが導入され、前立腺がんに対する手術を開始いたしました。久留米大学病院における外科治療は新しい時代を迎えたことになります。

今回はこのダヴィンチXiと前立腺がん手術の概要についてご紹介いたします。

代表的な高齢者がんである前立腺がんは近年顕著な増加傾向にあります。2015年の統計予測では、男性のがん罹患数で当初の想定より5年も早く胃がんを抜いて1位になり、中でも早期がんの割合が増加しています。この早期の前立腺がんに対しては様々な治療法がありますが、主な根治治療としては手術と放射線治療が挙げられます。それぞれ特徴があり、患者さんの状態と希望に応じて選択がなされます。

手術治療（前立腺全摘術）には長い歴史がありますが、はじめは下腹部を大きく切開して施行されてきました。その後技術の進歩とともに、切開創は次第に小さくなり、2000年代はじめ頃からは腹部に数か所の穴をあけて内視鏡を挿入し、前立腺を摘出する腹腔鏡手術が普及してきました。これにより痛みが少なく、術後の回復も早くなりましたが、術後合併症である尿漏れや勃起障害などは減少したものの、依然一定の割合で認められます。



Xiシステム（当院採用機種）



サージョンコンソール：手術操作実施本体

パシエントカート：術者操作システム

ビジョンカート：モニター画面、カメラユニットを搭載したトロリー

そして、2009年頃からわが国でも登場してきたのがロボット支援手術です。内視鏡で行う基本的な手術手順は従来の腹腔鏡手術と同様ですが、大きな違いは内視鏡や鉗子、メスなどの手術器具を、コンソールと呼ばれる患者さんから離れた操作席（写真1）に座った術者が、本体であるペイシェントカート（写真2）のロボットアームを操作して動かす点にあります。

このロボット手術の利点は、①拡大した良好な3D（立体視）視野での操作 ②手振れが全く無く、人間の手以上に細かい動きが可能といったことなどが挙げられます。これにより、これまでの腹腔鏡手術以上に細かく正確な手技が可能になります。すなわち術中出血や術後合併症頻度の軽減、患者さんの術後回復やQOLの改善、ひいては治療成績の向上が期待されます。

ロボット支援下前立腺全摘術は2012年の保険収載以降、日本国内で急速に普及していますが、この度久留米大学病院に導入された最新機種であるダヴィンチXiは、従来機種に加えて様々な新しい機能が追加されており、今後は前立腺のみならず、腎臓、子宮、胃などの様々ながんに対しても柔軟に対応できることが期待されています。がん診療はわが国における医療で最も重要な領域の1つです。筑後地区におけるがんの外科治療に今回のダヴィンチXi導入が大きく貢献できることが期待されます。

手術室設置風景



サージョンコンソール
（写真1）



ペイシェントカート
（写真2）

ビジョンカート

当院機種「Xiシステム」の従来機種「Siシステム」との主な機能を比較

- 1) アクセシ性・操作性の大幅な向上を実現
 - ・回転式ブームの採用により、患者の全方向からのアクセス可能（位置の固定制限なし）
 - ・一段と細径化（幅が半分）したロボットアームによりアーム同士の干渉が大幅減
 - ・新デザインの関節と専用鉗子延長（Siより4.5cm長い）による操作性の向上
- 2) より高画質な3D-HD画像と新エンドスコープが視野展開の多様化を確保
 - ・エンドスコープの視野角が80°（Siは60°）となり、視野・視認性が向上
- 3) 将来のシステム拡張性を提供するプラットフォーム
 - ・既存の低侵襲外科手術を構成する最新技術に加え、将来の技術革新にもスムーズに対応・統合可能

新任診療部長紹介

平成28年6月1日付就任



教授
すだ けんじ
須田 憲治

小児科

1. 国立島根医科大学（昭和60年卒業）
2. 小児循環器病学、先天性心疾患
3. こどもの心臓病と成人の先天性心疾患を幅広く診療・研究しています。特に川崎病の治療・研究、先天性心疾患や不整脈の診断とカテーテル治療、胎児心疾患診断・不整脈治療の専門施設として、九州全土、沖縄からも患者さんをご紹介頂いています。今後も地域の先生方との連携を密にし、地域医療に貢献できるよう努力する所存です。皆様からのご指導・ご協力を頂けますようお願い申し上げます。



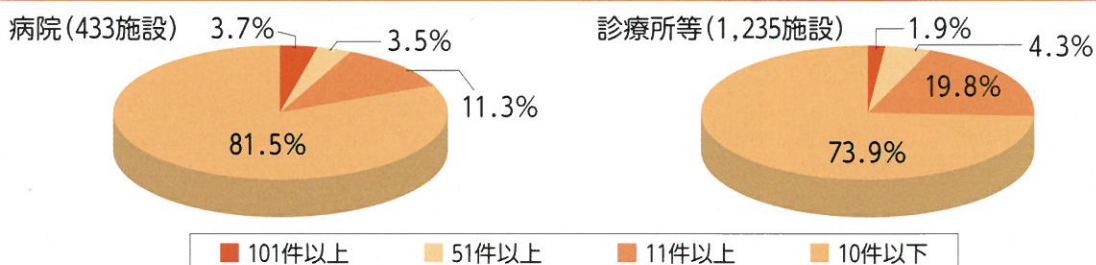
1. 出身大学（卒業年）
2. 専門の臨床領域
3. ご挨拶

紹介予約センター紹介実績

医療機関の先生方、医療連携ご担当の皆様におかれましては、いつも紹介予約センターをご利用いただき、お礼申し上げます。

紹介予約センターは、平成26年2月17日の運用開始から、2年5ヶ月が経過しました。ご紹介いただく先生方からの様々な助言、ご指摘を受けながら改善を図ってまいりました。まだ不十分な点もございますが、お電話での直接予約が可能な診療科を増やし、ファクス受付においては、お申込みから受診日決定のご連絡までを短くするよう鋭意努力してまいります。今後とも、紹介予約センターをご利用いただきますよう、よろしくお願いいたします。

施設区分別紹介実績累計（平成26年2月—平成28年3月）



月別紹介予約件数（H26年度・H27年度）

月 別	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
年 度 別	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度
FAX件数	575	648	463	627	602	710	596	810	493	784	531	800	539	821	514	732	435	532	454	649	528	806	643	848	6,373	8,767
電話件数	222	276	215	249	211	346	242	291	279	290	313	290	237	253	268	250	270	263	287	245	272	270	304	262	3,120	3,285
割合(%)	27.9	29.9	31.7	28.4	26.0	32.8	28.9	26.4	36.1	27.0	37.1	26.6	30.5	23.6	34.3	25.5	38.3	33.1	38.7	27.4	34.0	25.1	32.1	23.6	33.0	27.5
合計件数	797	924	678	876	813	1,056	838	1,101	772	1,074	844	1,090	776	1,074	782	982	705	795	741	894	800	1,076	947	1,110	9,493	12,052

【運用変更のご連絡】

受診予約日決定後のファクスによるご連絡について、これまで「外来診療予約通知書」のほか、本院宛ての「FAX送信状」を送信しておりましたが、「FAX送信状」については「紹介状を送りなおす必要があるのか」等、分かりづらいとのご意見がありましたので、5月19日をもって廃止いたしました。

編集後記

この広報誌がお手元に届く頃は、梅雨も明け、紫陽花からひまわりの季節になっていることでしょう。2016年は「史上最も暑い年になる」とのこと。熱中症は「気づく」ことが重要らしいですよ。ご自分やまわりの大切な人に心を配り、暑さをよけながら、元気に夏を過ごしませんか？

専門家の先生方には失礼な“つぶやき”でした。

（医療連携センター事務 末安ひとみ）